Tips 6 - ウィンドウの整列

はじめに

これは、TileWindows コマンドの解説です。

Igor Pro を使って作業をしていると、ウィンドウがたくさん開くことになり、また、それらが重なり合ってわかりにくくなることがあります。

このような場合は、TileWindow コマンドを使うとよいでしょう。

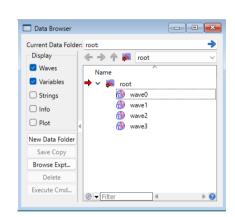
このコマンドでの制限は、Data Browser ウィンドウと Help Browser ウィンドウには適用できないということです。

また、並べる順番もコントロールできません。

実際のコマンドの動きを確認するために、右のように 4 つのウェーブを 作ります。

ウェーブのデータは何でも構いません。

これら4つのウェーブのグラフとテーブルをすべて表示します(合計で8つのウィンドウ)。



コマンドウィンドウの固定

どのような整列をしても、コマンドウィンドウだけは常に表示しておくと便利です。 コマンドウィンドウで次を実行してみてください。

TileWindows/C

コマンドウィンドウが今開いている Igor Pro のウィンドウの幅に合わせて、ウィンドウの下に表示されるようになります。

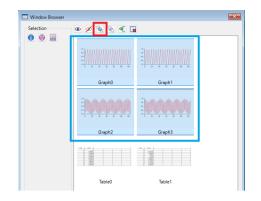
/C を指定しないと、コマンドウィンドウの位置と大きさは変化せず、整列した他のウィンドウの後ろになります。

グラフウィンドウの整列

まず、すべてのグラフウィンドウが他のウィンドウ(テーブルなど)に隠れないようにします。

メニュー Windows → Window Browser を開きます。

4つのグラフを選択し、画面上部の Bring to Front (前面に持ってくる) ボタンをクリックします。



グラフウィンドウだけを整列するには、/O=1 フラグを使います。

ここでは4つのグラフウィンドウが開いているため、2 行 x 2 列で整列してみます。

縦横のウィンドウの数を指定するには、/A=(縦,横) フラグを使います。 コマンドウィンドウで次を実行してみてください。

TileWindows/C/O=1/A=(2,2)

右のように、2行x2列のグラフウィンドウと、画面下部のコマンドウィンドウに整列されます。

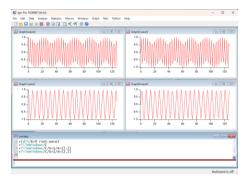
ここで、

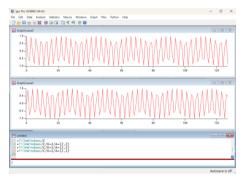
TileWindows/C/O=1/A=(2,1)

を実行すると、右のようになります。

最前面の2つのウィンドウの裏側にも2行x1列のウィンドウがあります。

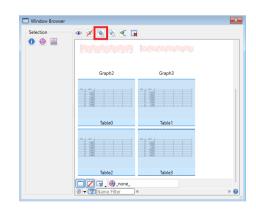
グラフウィンドウの ID 順に表示され、新しいものが最前面になります。





テーブルウィンドウの整列

メニュー Windows \rightarrow Window Browser を開きます。 4つのテーブルを選択し、画面上部の Bring to Front (前面に持ってくる) ボタンをクリックします。



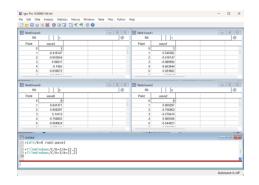
テーブルウィンドウだけを整列するには、/O=3 フラグを使います。

ここでは4つのグラフウィンドウが開いているため、2 行 x 2 列で整列してみます。

コマンドウィンドウで次を実行してみてください。

TileWindows/C/O=3/A=(2,2)

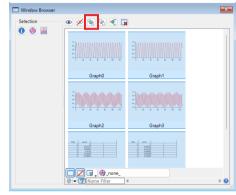
右のように、2行x2列のグラフウィンドウと、画面下部のコマンドウィンドウに整列されます。



グラフとテーブルウィンドウ両方の整列

メニュー Windows \rightarrow Window Browser を開きます。

4つのグラフと4つのテーブルを選択し、画面上部の Bring to Front (前面に持ってくる) ボタンをクリックします。



グラフとテーブルウィンドウ両方を整列するには、/O=3 フラグ (/O=1+/O=2) を使います。

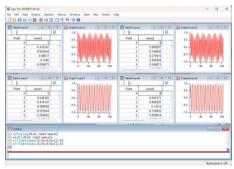
ここでは8つのウィンドウを整列したいため、2行x4列で整列してみます。

コマンドウィンドウで次を実行してみてください。

TileWindows/C/O=3/A=(2,4)

右のように、グラフウィンドウとテーブルウィンドウが整列されます。

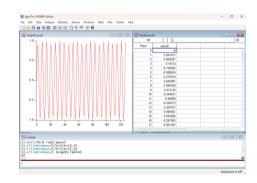
フラグについての詳細は次ページのヘルプを参照してください。



特定のウィンドウの整列

ある特定の2つのウィンドウを並べて表示するには名前を指定します。 例えば、waveO のグラフとテーブルを並べたい場合は次のようにウィン ドウ名を指定してコマンドを実行します。

TileWindows/C Graph0, Table0



TileWindows コマンドのヘルプ

TileWindows [flags] [windowName [, windowName]...]

TileWindows コマンドは、Igor フレームウィンドウ内の指定されたウィンドウをタイル表示します。

フラグ

/A=(rows,cols) ウィンドウをタイル表示する行/列の数を指定します。

/C コマンドウィンドウをタイル表示されるウィンドウに追加します。

常にウィンドウの下部に表示されます。

/G=grout グラウト(タイル間の間隔)を一般的な単位で指定します(/I または/M を使

用しない限り、単位はポイント)。

/I インチ単位の座標を指定します。

/M センチメートル単位の座標を指定します。

/O=objTypes タイル表示されるウィンドウに、objTypes で指定されたタイプのウィンドウ

を追加します。

objTypes は、ビット単位のマスクです。 Bit 0 (/O=1 [2^0]): グラフ Bit 1 (/O=2 [2^1]): テーブル

Bit 2 (/O=4 [2^2]) : ページレイアウト Bit 4 (/O=16 [2^4]) : ノートブック

Bit 6 (/O=64 [2^6]): コントロールパネル Bit 7 (/O=128 [2^7]): プロシージャウィンドウ

Bit 9 (/O=512 [2^7]): ヘルプウィンドウ

Bit 12(/O=4096 [2^12]): XOP ターゲットウィンドウ

Bit 14 (/O=16384 [2^14]): カメラウィンドウ Bit 16 (/O=65536 [2^16]): Gizmo ウィンドウ

他のビットは常に0でなければなりません。

/P メインプロシージャウィンドウをタイル表示されるウィンドウに追加します。

/R タイル表示される矩形の%を単位とした座標を指定します。

/W=(left,top,right,bottom)

画面上のタイル表示された矩形を指定します。

座標は、/W の前に /I、/M、または /R が指定されていない限り、ポイント

単位です。

/WINS=windowListStr セミコロンで区切られたウィンドウ名のリストを使って、タイル表示するウィ

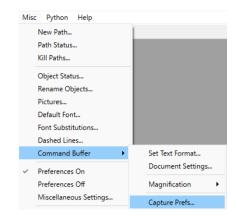
ンドウを指定します。

詳細

/W フラグを省略すると、デフォルトのタイル領域が使われます。

これは、コマンドウィンドウに対するプレファレンスで設定された位置の領域です。

メニュー Misc \rightarrow Command Buffer \rightarrow Capture Prefs(コマンド領域にカーソルがある場合)または Misc \rightarrow History Area \rightarrow Capture Prefs(履歴領域をクリックした場合)を使って設定できます。



タイル表示されるウィンドウは、/WINS、/C、/P、/O=objTypes フラグ、および windowNames によって決定されます。

これらのフラグが存在せず、windowNames も存在しない場合、すべてのウィンドウがタイル表示されます(Data Browser、Help Browser などは対象外です)。

それ以外の場合、タイル化されるウィンドウは以下のように決定されます。

- 表示中の名前つきのウィンドウはすべてタイル表示されます。
- /WINS で指定されたすべての表示されているウィンドウは、タイル表示されます。
- /C フラグが指定され、コマンドウィンドウが表示されている場合、コマンドウィンドウもタイル表示されます。
- /P フラグが指定され、プロシージャウィンドウが表示されている場合、プロシージャウィンドウもタイル表示されます。
- /O=objTypes フラグが指定されている場合、objTypes で指定されたすべての表示されているウィンドウもタイル表示されます。